"成人"おめでとう
―ことしも盛大に催す―

一月十五日成人の日。満二十才以上に達した[illegible]の成人という[illegible]同時に憲法で保障された普通選挙における選挙権を獲得するわけだ。そして成人の日に満二十才に達したものが社会の一員として、また日本国民として、改めて誇りと責任を自覚し、強く生き抜いていくことを社会から祝福され、立派な社会人となるよう期待される日だ。

町でもこの日、成人となった者を白根[illegible]堂に集め、式を行うことになっているが、ことし成人となるものは七三五名。

当日はことし成人となるものから、公民館で募集した作文「成人となって」の入選作品が発表され、入選者の表彰が行われる。

なお、成人を記念して、各人に金百円預入の郵便貯金通帳を贈ることになっている。

役場の配置変る

各課の配置は三月中旬までの暫定的なもので、現在進行中の庁舎増築工事が完成すると、三階を会議室とし、増築した庁舎には土木課、経済課、農業委員会が配置される予定である。

下図は新配置図

各課の配置

三階	教育委員会	土木課	経済課
二階	農業委員会	総務課	税務課
階下	出納室	戸籍課	民生課

役場増築工事始まる

既報の役場脇の増築工事は昨年十二月より、近藤組により進められているが、完成は三月になる予[illegible]廃止に[illegible]増した[illegible]識も[illegible]している[illegible]状態で、増築工事の完成により[illegible]のとみられる。

役場人事

（一月一日発令）

総務課長　小林啓一郎
税務課長　吉川芳一（民生課長）
民生課長　遠藤孝六郎（人事係長）
土木課長　平山五郎（庄瀬支所長）
経済課長　佐藤新平（土木課長）
戸籍課長　細井五郎
教育課長　石塚了

家庭

冬に多い猩紅熱

冬の伝染病である「猩紅(しょうこう)熱」は一月、二月に多くなります。六、七才くらいの子供がもっとも多く、十五、六才までかかります。患者はすぐ隔離して伝染を防ぎ、また、患者のいる家庭へは子供を近づけぬように注意してください。

赤ちゃんの冬の栄養

冬の間、日光に親しめない赤ちゃんのために、ビタミンDを与えましょう。骨や歯の発育をさかんにし、クル病の予防に役立ちます。

健康のバロメーター

月に一度の体重測定は赤ちゃんの健康を見分けるもっとも良い方法です。みかけばかりに頼ってはいけません。

赤ちゃんを肺炎から守ろう

おとなにとってちょっとした鼻かぜでも、赤ちゃんには大敵。くしゃみ、咳、熱が出てキゲンの悪いときはあなどらず、早く医師の手当をうけて、恐ろしい肺炎から赤ちゃんを守ってください。

ふだんから薄着をさせて皮膚をきたえる一方、部屋の温度に応じて着物を加減することが大切。また、おとな自身がかぜをひかぬよう注意し、人ごみの多いところはできるだけさけ、外出後はうがいを実行したいものです。

室内の湿度に注意

主婦は家族の健康のために、室内温度に気をつけましょう。十五度〜十八度が適当

室内の温度をあげすぎて、乾きすぎると呼吸器系統の病気をおこしたり、家具や建具が狂ったりします。必ず室内に蒸気をたたせてください。

白根見てある記【2】

暗渠排水と裏作

島国日本――狭い国土の中で人間がひしめき合って超満員。しかも五百万町歩の農地で九千万人の台所をまかなわなければならないのだから、農林省も頭が痛い。されぱこそ、日本的に最少の土地で最大の収穫を上げる科学的な農法を研究し、戦時中は国民の食糧の確保に、戦後は外米の輸入を少しでも押えて、ドルの浪費を押えようというわけ。

さて、ここで登場する暗きょ排水も、食糧増産自給化を目標に昭和十六年、県下のトップを切って白根で試験的に施工し、昭和十七年から県営で本格的に実施、労資の不足の悪条件をしのいで、とにかく昭和二十二年の事業打ち切りまで約二千町歩の暗渠を施工した。この総工費二百余万円。そして、昭和二十六年積寒法等により土地改良の補助が復活し、この補助をうけて暗渠工事を開始、三十二年までに一千四百町歩が暗渠を終り（この工費約一千五百万円――推定）白根町の水田の七〇%が暗渠を実施したことになった。

湿田から乾田へ、そして農業肥料の進歩、品種の改良や、耕うん機をはじめ各種機械の発展により農業生産力はいちじるしく増大し、乾田化された白根町の田地は裏作が可能となった。戦時中はいわゆる国策にそって二毛作が行われ、麦、雑穀、イモ等が作られ、これは戦後の食糧不足時も継続された。裏作の最大に行われた年は昭和二十六年で全田地の一一%であるが、しかし、三十年には七%、三十一年には五%と急激に減少している。この裏作不振の原因には水稲栽培の早期化による障害、裏作作物の価格不利――たとえば小麦では反収二万円弱――単作の習慣、経営面積の大きいこと等が数えられる。一方、北浦の各地ではレンゲ、菜種等の肥料作物の栽培によって相当の効果をあげている。白根においても暗渠実施後の農業経営の課題はこの辺にあるのではないか。

乳価の不安定、低収益により乳牛の飼育が不利であるならば、小家畜を飼育するとか、畜産と有機的に結びついた裏作――水稲――裏作（飼料）――畜産（肥料）――水稲――にもっと意欲的でなければこれからの農業経営はますます窮地に陥るのではないだろうか。

これらの有畜化への転換がたやすく実行されるとは考えられないが、現在の状態で満足することなく農業および農民の近代化と、やがてくるであろう統制撤廃等はこれからの農村が必然的にブッからねばならぬ重要課題で、これを解決するには相当の努力と研究がなされねばなるまい。現在の農村はその曲り角に立っていると言えるようだ。（ＧＰ）

【暗渠工事の掘さく作業】

県知事より表彰
第一保育所の成田先生

昨年十一月三日「文化の日」に母子児童福祉功労者として、町の第一保育所主任保母成田吉子先生が県知事より表彰された。

成田先生は昭和五年、自力で託児所を開業、以来きょうまで"喜びも悲しみも"の二十七年間幾多の困難と戦いながら保育事業に専念、とくに保育所と地域社会とのつながりを深めることに努力した功が認められたもの。

（表彰された成田先生）

記者が訪ねたときは、吉川先生と二人で子供たちのあすのオヤツのドーナツを作っておられたが、「これもみんな、町民のみなさんの激励と後援の賜と感謝しています。苦しいこともありましたが、いまは昔の思い出です。今後も体の続く限り、保育事業にささやかながら励ませていただきたい」と粉で汚れた手を拭きながら謙虚に語っていた。

まちの話題

暗渠を畑地へも
土地の改良に激しい意欲

郷

新農村建設計画にも「暗渠(きょ)排水工事を完とった大[illegible]地区の土[illegible]、本年度は[illegible]五町歩[illegible]地改良事[illegible]は、各部[illegible]の工[illegible]が新し[illegible]落も[illegible]い[illegible]欲[illegible]行われている[illegible]昨[illegible]ツと作[illegible]年度は三十六町歩の[illegible]り、これらを考え合せる[illegible]二[illegible]割の増収が見込まれている。

また、暗渠完了部落も地力の増強に力を注ぎ、肥育十養豚、メン羊の飼育等家畜の飼[illegible]急激に盛り上り、[illegible]ク作りの畜舎、堆肥[illegible]もどんどん建築されている。さらに畑地の暗渠も急速に普及しつつあり、とくに果樹地帯の部落の効果は大きく、枯死寸前のブドウ畑に実施したところ、いままで成績の良かったブドウ畑に劣らぬほどの収獲があったとか――チト伝説めくがホントの話――。また、梨畑では品質が向上、収獲も二、三割増という成績で、ここ数年中には大半の畑地に暗渠が実施されるとおもわれる。

浪曲天狗道場大当り

白根の8店会が、相撲太郎を招いて民放の人気番組の"浪曲天狗道場"を、十二月二十二日白根中学校で開催、早朝からファンが会場につめかけ、開[illegible]時[illegible]は四千[illegible]の[illegible]ヤ、ツ[illegible]でギッシリ。

出場した選手は一五名で、二段を許された人が最高

フォークダンス講習会＝中央公民館主催で十二月[illegible]日新飯田中で、同十五日は六鷲中と白根小でフォークダンスの講習会を開いたが、

で一[illegible]。あと[illegible]（部分的）段で惜しくも消えていった。

白根地区卓球大会＝第十回白根地方卓球選手権大会は、一月[illegible]日白根小学校で町卓球連盟、町教委の主催で開き、白根地方の精鋭百余名が参加、熱戦を展開した。成績▲団体 一般(1)白根A(2)白根[illegible]生(3)巻高。女子①白根[illegible]②白[illegible]定高A▲個人戦男子①猪股稔（白根）②猪股隆（同）。女子①薄田七美（白根）②渡辺奈々子（同）

早野社教係長退職＝新白根町発足時より社会教育係長として勤務された早野軍治氏は昨年末退職、前大郷支所長の小柳一郎氏が社教係長に就任。

小林校のよい子らに贈物
―地区出身の伊藤氏が―

札幌市で金属材料商の伊藤徳三氏――小林地区浦梨出身――が母校を訪問され、ミシン三台と放送設備の基金五万五千円を寄贈。

これに学区の各家庭より寄附金を集め、合計十万円で、ビクター一六ワットの拡声機一式が備えられ、よい子たちの学校生活を楽しくしている。

なお、伊藤氏は二十年前、校庭の二宮金次郎の銅像を寄贈された人で学区のP、T、Aは篤志に感謝している。

声

独立公民館の設置を急げ

◆白根町は合併によって四万近い人口を有する町となった。しかし、独立した公民館はなく、いまだに教育委員会と雑居している貧弱さだ。

◆公民館が発足した当時、町民の茶の間がモットーであった。その精神はいまも変りないはずだ。しかし、茶の間と称するにはいかにも貧弱で、うら悲しい。

◆公民館へ行ったものはだれもが経験することだろうが、オドオドしながら本を借り、ビクビクしながらものを尋ねる。およそ茶の間の概念とははるかにかけ離れた事務室である。

◆町の財政も苦しいことだろうが、独立した公民館を建てて、町民が和やかにくつろげる場、ほんとうの茶の間にして欲しい。（白根 佐藤）

看板で町を汚すな

◆白根に行って驚くは映画の広告である。立看板や、電柱にベタベタと張られたビラ。これでもか、これでもか、と町行く人をウンザリさせるほどの広告戦だ。

◆しかも、厳禁されている電話線の柱にまでハンランするビラ。そして上映期間をとっくに過ぎているにもかかわらず、薄汚く残されている。

◆白根の町は美しい町であるとはいえないが、薄汚くはしたくないとおもう。広告する側としてはいろいろ理由もあろうが、も少しお互に自粛して町の美化に心掛けてもらえぬものだろうか。（根岸一青年）

編集後記

●新年おめでとう。おそまきながら編集部一同お祝い申しあげる●ことしは地球観測年。人工衛星の打ち上げ競争や、天体の話、ロケット等が炉辺の話題を賑わすことだろう●町では自主再建の第二年目、新国道や分町等問題は山積している●役場は超満員、戦場のような騒しさだ。もっとも忙しいことと騒しさは別だが早くなんとかしてもらわないと町民が困る。●夜空は素晴らしい。オリオン、大犬、スバル等の星座が冬を切実に感じさせる。（和郎）